

赤穂高校・大角謙二校長 「満足度向上が大事」

4月に赤穂高校に着任した大角謙二校長(56)に学校運営方針や抱負について話を聞いた。

「これまでに赤穂高校に勤務されたことはありませんか。」

「西播磨の学校に赴任したのは初めてです。」

「着任前に赤穂高校にどういった印象をお持ちでしたか。」

「今から十数年前ですが、部活動の練習試合で赤穂高校に来たことがありました。そのときのイメージで、真面目な校風といえます。ようか、コツコツ真面目に取り組み、そういう一番大事なものを持っているなど思いました。あと、やはり赤穂義士のふるさと、剣道が盛んな土地柄というイメージですね。」

「実際に着任されてどのように感じられていますか。」

「生徒の気質は当時のイメージとほとんど一緒です。純粹で素朴

です。身だしなみも清楚です。そうした伝統が引き継がれているように感じます。当たり前前のように、なかなか当たり前のことではないので、そこはちょっと感動しましたね。あと、(着任後の)式典で言ったからかもしれないですが、生徒たちが校長室に来てくれるんですよ。『先生、ちょっと聞いてほしいことがあるんです』みたいな」



カーポート
テラス・門扉
承ります

まーくん社長

(株)杉山サッシ硝子

尾崎 ☎43-7467 豊野 ☎48-1098

「前任の行本校長と同じで、『真』を学び『善』を行い『豊かな感性』をもつ生徒の育成」です。そこに、自分の将来をリアルに感じる体験、仕掛けを作ったあげたいと思っています。具体的に自分の将来とか自分がやるうとしてること直結するような学びであっ

たりとか、その姿が明確に見えるような体験があったら頑張ろうってなりますよね。そのきっかけを、高校教育の中で与えてあげたい」

「兵庫県で学区再編があり、今後は学校の統合も行われます。そんな中、赤穂高校はどのような方向性を目指すのでしょうか。」

「赤穂高校の良さを引き継いでいくことがまず第一。赤穂高校は兵庫県の西の端にあり、その立地条件は変えられません。それはそれで受け止めて、生徒の満足度を高めることが大事だと思っています。」

「ここ4年は入学者数の定員割れが続いています。」

「ポイントが明確になりませんか。」

「5年後には創立100周年を迎えます。」

「学校や卒業生だけの行事ではなく、赤穂市がさらに活性化する一つのきっかけになるぐらいのことができればと思っています。赤穂市に唯一の高校ということ、市の協力を得られる体制がすでにあるというのは大変ありがたいです。」

「赤穂高校の応援団として見守って欲しいと思っています。無関心ではなく、注目していただいで、良い話だけでなく、お叱りも聞かせていただきたい。それを職員一同、皆で良くする力に変えていこうと思っています。」

(写真は赤穂高校に着任した大角謙二校長)